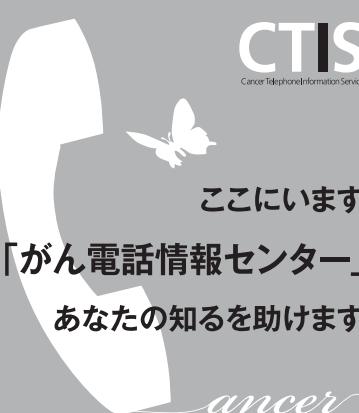


The legend of OBASAN



CTIS
Cancer Telephone Information Service

ここにいます
「がん電話情報センター」
あなたの知るを助けてます
cancer

(全国一律の電話料金でご利用いただけます。
PHS、一部のIP電話からはご利用いただけません。)
おー こ こ に じょう ほう
0570-055224
受付時間：平日 12:00～17:00
(土日・祝祭日・年末年始・夏期休業を除く)

「竹」が気になり始めて何年になるだろうか。

春においしい筍を提供してくれる、あの竹である。京都の詩仙堂へ行けば美しい竹林が先ず出迎えてくれる。あの竹。それがいつからか、新幹線から視線を沿線の山辺に注ぐと、大量の竹が里山を侵食している様子が目についてたまらなくなつた。

栃木県の山あいの町に生まれ、里山で遊んで育った。春にはわらび、秋にはキノコを探りに出向いたものだが、家を出る時には当たり前のように竹かごを持った。台所の流しの横には竹製の茶碗かご。家の周囲には竹で組んだ垣根。しかし今、里山へ入って行く大人も子どももいなくななり、生活用品はプラスチック製ばかりになつている。生活の変化で山が荒れ放題、



橋本 明子

NPO法人血液情報広場・つばさ理事長、
がん電話情報センター・CTIS相談主任、
日本骨髓バンク(骨髄移植推進財团)常任理事

—竹がはびこっている。気に入る。海で、山で、遊んだらゴミは持ち帰ろう。戦争は嫌だ。日本人の1人として、核兵器の無い社会を心から望む。

「伝説のおばさん」のオススメ 6

里山や戦争のこと 周囲と話しつづけよう

Akiko Hashimoto



わらびもキノコも、そして筍も貢つて食べるものとなつた…、等々の連関は、もう私が今さら言わなくても社会全体で気づいた。つまり10年ほど前は、竹が気になるのよ、と言っても「え？」と怪訝な顔をされることが多かつたが、最近はそれを解決する機運も動きもあるとのことだ。森林も里山も、人にとって大切な水、そして海を清浄に保つための基本財産である、ということも認識され、そのため、「喪った状態を何とか元にも戻そう」と努力している人達がいることも、幸いなことに聞こえてきている。

ところが私には、里山へ侵食している竹の一本も始末できない。新幹線でコーヒーを飲みながら、その様子を睨むことぐらいが関の山だ。多くの事で同じだ。イラクで犠牲になつている子どもや母を、1人として救うこともできない。でもやはり周囲と話しつづけよう。社会構成員の1個として。